

「 震災後の吹奏楽の活動を通して 」

宮城県亶理高等学校

1. 活動の概要

①宮城県農業高等学校吹奏楽部・合唱部

宮城県亶理高等学校吹奏楽部による

「さわやか音楽会」

平成23年6月4日（土）12時45分開演

宮城県亶理高等学校体育館

②東日本大震災復興支援

ラベンダー・ジャズ・オーケストラ

亶理高&宮城農高 「ふれあい音楽会」

平成23年10月9日（日）13時30分開演

亶理町中央公民館

2. 活動の成果等

3. 11の震災後、亶理高等学校は、震災の影響により校舎が使用不能となった宮城県農業高等学校の生徒（2学科6クラス）と校舎を共同利用することとなった。授業や行事は基本的に別々に実施したが、部活動においては一緒に活動できる部は協力し合おうということになり、本校吹奏楽部（20名）と宮城農高吹奏楽部（15名）は一緒に活動を開始した。宮城農高は3高校に分散して授業を行っていたが、休日には全員が集まり活動した。一気に部員が増え、「少人数では出来ない体験をしよう」「宮農高から学べるものを得よう」と合同練習を始めた。その中で、避難所になっている本校体育館で自分たちに今できることがないかを考えた際に、小さな音楽会をやってみようということになった。避難所の担当の方との打ち合わせを進め、6月4日土曜日の昼食後の時間、「さわやか音楽会」を実施した。宮農の合唱部員1名も入れて吹奏楽3曲と吹奏楽部員と



さわやか演奏会 (H23. 6. 4)

合唱部員での合唱2曲を演奏した。新入生も入って時間のないところでの演奏だったが、「ゆうやけこやけ」の演奏や「翼をください」「故郷」の合唱の際には、避難所の方も一緒に歌われたり、涙を流している方もいて、精一杯演奏した私達もとても感動し、「音楽のすばらしさ」を体験した。



ふれあい音楽会 (H23. 10. 9)

その後も合同で吹奏楽コンクールに出場するなど活動を続けたが、夏休みに入った頃、石川県のラベンダー・ジャズ・オーケストラという団体より「4年前、自分達は能登半島地震の際に大変お世話になったので、是非宮城の被災地に行って演奏をしたい」との話があり、10月9日亶理町の中央公民館において東日本大震災復興支援「ふれあい音楽会」を実施することとなった。石川県穴水町から300キロの米をはじめ石川県各地の婦人会等から多くの支援物資も届けられ、会場に来ていただいた方々に配ることもできた。当日の演奏では亶理高・宮農高吹奏楽部、ラベンダー・ジャズ・オーケストラのそれぞれの演奏の後に、「ふるさと」と「A列車で行こう」を合同で演奏し、本格的なジャズバンドのサウンドの中に入った私達は、普段出来ない体験を味わった。仮設住宅からも多くの方々が来場され、とても楽しんでいただき、演奏会后喜んで帰って行かれるのを見て、心の中に温かいものが湧き上がるのを感じた。

「今できることをやろう」と考え、取り組んでみた2つの演奏会では、改めて音楽のすばらしさ、音楽の力のすごさを感じた。また、それだけでなく、多くの方々からとてもあたたかい支援を受け、応援していただく中で毎日の活動ができたことを実感している。私達はこのことを忘れず、常に感謝の気持ちを忘れずにこれからも活動していきたいと考えている。